

情報連絡員報告 4月

2009.4
April

一部の業界に底を打つ兆しが見られるものの、依然として状況は厳しい。

4月の情報連絡員報告によると、前年比の景気動向は、製造業・非製造業ともに景況DI値がマイナス80を超えており、売上高、収益状況といった数値も依然として大幅な悪化傾向を示している。また、廃業や組合脱退についての報告も相変わらず多数よせられている。しかしながら売上減少が止まりつつある旨の報告も散見されており、景気の底入れの兆候が現れているのか注視したい。	各項目のDIの動き（前年同月比）			
	全 体	製 造 業	非製造業	
【製造業64人、非製造業86人、計150人の集計】	売上高	⊖	⊖	⊖
	在庫数量	😊	😊	😊
	販売価格	⊖	⊖	⊖
	取引条件	⊖	⊖	⊖
	収益状況	⊖	⊖	⊖
	資金繰り	⊖	⊖	⊖
	設備操業度	⊖	⊖	—
	雇用人員	⊖	⊖	⊖
	業界の景況	⊖	⊖	⊖

😊 …増加、上昇、好転
 😐 …不変
 ⊖ …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	電線製造業	雇用調整助成金が役立っているとの声が多い。さらなる助成措置拡充を望む。
	鍍金加工業	事業継続が困難な事業所が増加しているが、汚染土壌改善等、事業廃止の際に発生する費用負担ができない事業所が多い。行政は相談窓口を設置してほしい。
	建築物製造業	より強力な住宅建設に対する優遇策を実施し、不動産市場の活性化を図ってほしい。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	緊急支援策の継続並びに拡充を期待する。
小 売	家具小売業	家電や住宅、自動車購入に対して購入促進措置が実施されるが、家具についても、シックハウス問題対応の国産家具への購入費助成等を検討していただきたい。
	理容用品小売業	組合は今秋、都立産業貿易センターにて理容業界活性化のためのイベント「TOKYO理容まつり」を開催すべく準備を進めているが、こうしたイベント等に対する助成措置の拡充をお願いしたい。
サービス	廃棄物処理業	単なる収集運搬業者が産廃処理業務に参入することは産廃法違反の疑いがある。行政は規制して頂きたい。
	自動車整備業	自動車関連業界の対応を容易にするためエコカー減税の簡素化を望む。

平成21年
4月

業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	漬物製造業	中国産食材への不信から国産指向が高まっているが、国産食材の確保が難しい。
	中華麺製造業	原材料価格上昇分の価格転嫁を行ったか否かに関わらず、売り上げ状況はマイナスとなった。
	製粉業	景況の悪化と後継者問題から組合員の廃業が続く。組合員数はこの十数年来で3分の2まで減少した。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	売り上げは前年比72%。取引先より低価格商品の納入依頼が増加しているため収益率が悪化。
	帽子製造業	4月は天候に恵まれ、初夏物の売れ行きが好調。若者向けのチロル帽も売れている。
	帆布製品製造業	平成20年度の組合員に対する共同購買事業の売り上げは前年比で大幅にダウンした。組合はリストラを断行しているが、限界に達しつつある。
	洋服製造業	高級品を中心に売り上げは不振。業界トップ10のアパレル系企業のP社が赤字に転落。当業界への影響も大きい。
	ニット製品製造業	外国製低価格品の大量仕入れ、大量販売を行うユニクロ等の商法に対して、メイド・イン・ジャパンを標榜し製品に自信を持つ組合員も価格面で太刀打ちできない。このままでは国内ニット産業は衰退しメイド・イン・ジャパンも消えることになろう。
木材・木製品	建具製造業	今年度の出足は鈍い。政府の住宅購入関係の税制優遇措置も特効薬になるとは思えない。
紙・紙加工品	包装材料製造業	3月末に10社、組合員の脱退が発生した。現在の景況下では営業努力も追いつかず、経営に嫌気がさしてきたとの声が聞かれる。また、厳しい景況下で東京都並びに区の中小企業助成制度を利用する組合員が増加している。
印 刷	印 刷 業	3~4月は横這い。悪化状況に変化はない。資材調達に安価な輸入品を利用するほか、人員削減等経費の削減で経営を維持している。1社が組合を脱退。
化学ゴム	塗料製造業	急激に売り上げが落ち込んだ後、現在は底這いの状況にある。
	プラスチック製品製造業	原材料の一部に値下げがあったが、受注量については引き続き減少傾向にある。今後の見通しについても不透明な状況にある。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	年度当初の工事発注量は毎年減少するものの、本年度は稀に見る落ち込み幅である。公共工事も修繕・耐震補修工事が主であり、新規工事物件は激減している。このため業界全体に活気がなく休眠に近い状況が続いている。
		売り上げ状況は大幅に悪化しており、在庫数量が増加している。
	生コンクリート製造業	主要原材料のセメント価格が上昇したため、収益状況が悪化している。
鉄鋼・金属	電線製造業	3月で底を打ったと思われるものの、未だ売り上げは低迷している。先行きが不透明で新たな戦略を立てることが難しい
	金属熱処理業	2・3月に比べ若干受注が増えている。5・6月も増加する見込みだが前年の受注量は期待できない。
	鋳物製造業	新年度に入っても受注量に変わりはなく、相変わらず低迷状況が続いている。
	鍍金加工業	仕事量の激減により受注環境が悪化。過当競争が発生している。限界を超えた発注側の要求に事業継続の断念を検討している組合員の事例がある。これまで適正利潤を認めてもらえなかった経緯から、発注者からの取引継続の要請に応じがたい状況
	建築金物製造業	売上高・販売価格・収益状況とも改善は見られず、引き続き厳しい状況にある。
	ダイカスト製品製造業	4月に入り受注状況に動きが感じられるが、依然低迷している。4月25日から16連休とする企業も多い。
一般機械	木工機械製造業	見積もり依頼はあるが、発注側は様子見の状況で受注につながらない。
	写真製版機材製造業	3末日付けで脱退組合員が2社。売り上げは前年度とほぼ同じであるが利益率が下がっている。
その他の製造	ガス圧接業	好転の兆しはなく、稼働率の低下が続いている。建設着工件数の減少から供給過剰状態にあり、単価の下落に歯止めをかけることができない。
	精密工具製造業	組合員の売り上げ状況は前年比50%以下。組合に対し運転資金の貸付要請があるが、組合も厳しい状況にあり貸付は困難である。

平成21年
4月

業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の 分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	化粧品卸売業	売り上げの減少が顕著。引き続き廃業店舗が目立つ。
	電線卸売業	建築用・家庭用電線の荷動きが鈍い。通常、夏場の工事物件の商談が入る時期であるが非常に低調である。
	美容用品卸売業	都内に支社を開設した地方業者の組合加入が相次いだ。
	セメント建材卸売業	4月の共同購買事業実績は大口需要があったため、前年比233.4%
	食肉卸売業	新型インフルエンザ問題の影響で豚肉の需要が悪化する事が懸念される。
	木材卸売業	市況が思わしくないため、今月より木材市場の手数料が引き下げられた。
	紙卸売業	紙メーカーの値下げ幅が小さい中で、卸商は印刷・出版会社に対し先行値下げを実施している。このため収支状況は悪化する見込み。
	玩具卸売業	新製品の数が例年に比べ遙かに少ない。ヒット商品も現れず、厳しい状況が続く。
	再生資源卸売業	再資源化物（古紙・金属・ペットボトル等）の市況が著しく悪化。特に古紙関連業者のダメージは大きく、資金繰りに苦しんでいる。
	ニット製品卸売業	前年に比べ業況は非常に厳しい。資金繰りに関しても銀行の貸し渋り傾向が強まり経営の不安定要因となっている。零細企業が多くを占める業界にあって倒産の増大が懸念される。
小 売	食器小売業	ゴールデンウィークを控え、飲食店の需要を想定していたが、全くの思惑はずれとなり4月としては過去最低の売り上げとなった。
	木材小売業	月を追う毎に荷動きが悪化している。
	古書籍小売業	組合員数に変化はなかった。景況は依然厳しい状況にある。
	自動二輪小売業	ユーザーの信頼を得るためにはコンプライアンスの遵守が必須である。二輪販売店の適正な商取引の確立を目的に組合はコンプライアンスに関する講習会を実施した。
	豆腐小売業	平成20年度の組合脱退者数は71名、ほとんどが廃業であった。
	ペット小売業	新型インフルエンザの影響で鳥インフルエンザの報道が下火になったことは安心材料であるが、業界の厳しい状況に変わりはない。
	宝飾品小売業	組合員の転廃業がさらに続くことが懸念される。
	電器製品小売業	エコポイント制度についての報道が先行し、買い控えの状況にある。液晶テレビは台数が伸びているものの金額はダウン。ブルーレイディスクプレーヤーは好調。5月はエコポイント制度により需要が上向くことが期待できる。
	中古自動車小売業	4月上旬の売り上げは好調であったものの、中旬以降は悪化した。今後エコカー購入促進策が中古車販売にもたらす影響を分析している。
	衣料品小売業	消費者の買い控えが一段と進行している。売り上げ状況は前年比で大きく落ち込んでいる。
	タイヤ小売業	インターネット販売と店頭販売との価格差が過大になっており、対応に苦慮している。
	文具小売業	ボールペンやシャープペンシルにヒット商品が出たことで筆記具の売り上げが好調であった。高級筆記具やギフト商品は低迷。オフィス向けの売り上げは不振。
	青果小売業	消費者は高価格でも付加価値を認める層と低価格であれば何でもよいという層にはっきりと二分化している。
	各種小売業	物販店の低迷が著しく、一部にはカード手数料が収益の悪化につながるとしてカード取り扱いを中止する店舗が出てきた。
	自転車小売業	定額給付金や好い天候が続いたことから有力店は売り上げを伸ばした。大型店の出店地域の販売店は依然として苦戦している。
メガネ小売業	昨年末から続く売上低下は下げ止まりつつあるが、上昇機運はうかがえない。平均単価は約20%低下。	

商店街	秋葉原	エコポイント制度が発表されたことで、買い控えが起きている。マスコミ報道がナースバスになっている消費者の心理に影響を与えている。
	赤坂	商店街の会員である歯科医院が、対象業種ではないとの理由で中小企業特別融資を受けることができなかった。
サービス	自動車整備業	エコカー減税が施行されたことにより、重量税の扱いが複雑で混乱をきたしている。
	クリーニング業	節約志向の高まりで顧客のクリーニングの利用回数と洗濯物の点数が減少している。本格的な繁忙期である5月に期待しているが、ファッションのカジュアル化の影響もあり厳しい商戦となることが予想される。
	飲食業	事業年度終了を機に廃業する組合員が増加。夜間のみならず、ランチタイムの客も激減している。
運送	貨物自動車運送業	荷動きは極めて低調。資金繰りは一層困難。荷主の合併・移転等の事情により取扱量が一変することもあり「何が起ころかわからない」状況にある。
	港湾運送業	国内外の景気低迷により売上高は4～5%減少。収益は9～18%減益。
建設	内装工事業	4月中は工事の受注残があるものの、5月以降は厳しい状況ある。